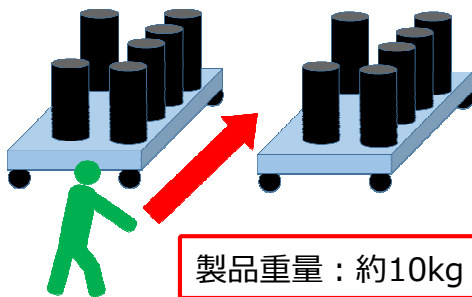


転倒しやすい場所・状況

転倒は労働災害の中でも特に多く、4人に1人が転倒によるものです。転倒しやすい場所・状況を知ることが、転倒を未然に防ぐことにつながります。災害事例をもとに転倒しやすい場所とその状況を見ていきましょう。

【災害事例1】 狭い場所での転倒

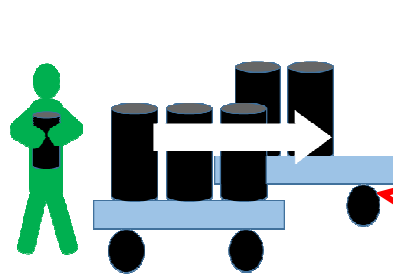
右ひじ・左ひざ・右骨盤を打撲



製品重量：約10kg

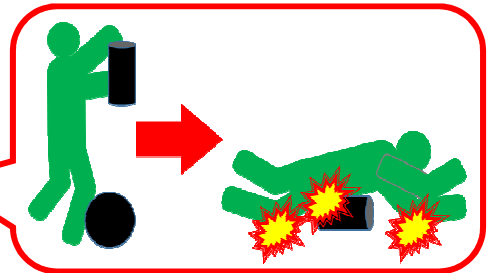
①

製品を取ろうとして台車の間を通った。しかし、台車の間は幅が狭く、横向きで通る必要があった。



②

製品を取り出した後、製品を抱えながら横向きで戻ろうとした際に、台車の車輪に右足を引っかけた。



③

製品を抱えた状態で転倒したため、床に右ひじ・左ひざをぶつけ、製品で右骨盤をぶつけた。

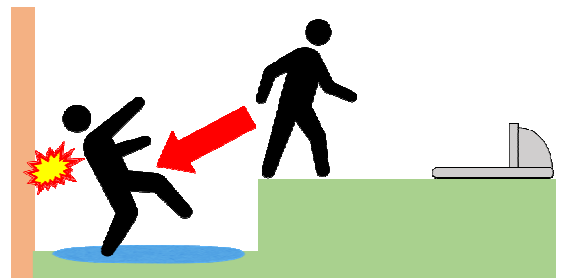
作業スペースが狭い場所、製品を抱えた状態での移動は足元が見えにくく、つまずきやすいので注意が必要です。

【災害事例2】 トイレ内での転倒

後頭部を打撲

トイレを使用後、後ろ向きに下がりながら段差を降りようとした際に床で足を滑らせ転倒、ドアに後頭部を強打した。トイレ内は入口から便器の間に段差があり、清掃後で床が濡れていた。

水や油などで濡れている床は足を滑らせやすいので注意が必要です。



● つまずきやすい場所・状況

- ① 作業スペースが狭い場所
- ② 製品を抱えている状況

● 滑りやすい場所・状況

- ① 水や油などで床が濡れる場所
- ② 清掃後など、床が濡れている状況

転倒しやすい場所や状況では、特に足元の確認を意識しましょう。
整理整頓・床に落ちたゴミや異物の除去をこまめに行うことも大切です。



★今月の安全衛生川柳～駆け足は転倒・接触の原因となる危険行為です。

無理するな 駆け足こそが 事故のもと 兵庫支店 スタッフさんの作品